活動紹介

活動紹介

種子島医療センターサーフィン部(TSC)

リハビリテーション室　理学療法士　上原　瑞生

新型コロナウィルス感染症が全国で猛威を振るい、自粛期間が続いている中で、当院でも医師・看護師など、医療従事者が最前線で立ち向かっています。

種子島は太平洋・東シナ海に面し、リーフ・ビーチと多彩な地形からなる様々なポイントがあり、ほぼ毎日サーフィンが可能な環境です。また、ローカルサーファー(地元出身のサーファー)の方々も温かく、混雑することがほとんどないため、島ならではのゆったりとしたサーフィンライフが楽しめます。オリンピックの正式種目となったこともあり、TV・雑誌で取り上げられることも増えてきています。また、種子島、種子島医療センター、サーフィンを題材とした映画(ライフオンザロングボード　2nd wave)の撮影が行われ、より一層盛り上がりを見せているところです。

私は、リハビリテーション室に所属しています。サーフィン歴は浅く、初心者並みでまだボードに立つことがやっとなレベルです。それでも、晴れた日の透き通った海は、浮いているだけでも幸せな気分になります。また、海に入っていれば「GO!GO!」と波に乗るタイミングを教えてくれ、声をかけてくれる優しい人までいます！海から見える夕日もまた、見所の一つです。今年に入ってまだほとんど海へ行けていない状態ですが、これから夏に向けてどんどん海へ入ろうと思います！

種子島医療センターにも医師、看護師、リハビリテーションスタッフ、介護士等様々な職種の方がサーフィンをされています。また、種子島出身の人だけでなく、日本各地から、仕事、サーフィンを目的に集まってきているメンバーもいるため、最初は離島での生活や仕事に不安を感じていましたが、すぐに馴染むことができました。サーフィンだけでなく、海や自然が好きな方は、種子島での生活はとても充実したものになると思います。

また令和4年6月現在はコロナウィルス感染により外出や遠出が自粛されていた世の中から、徐々に緩和され始めました。コロナウィルス感染症の終息と種子島皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

種子島医療センターテニス部

田上診療所　事務長　古元　康徳

新型コロナウイルス感染拡大のため、島内での大会が殆んど行われていない状態でしたが、7月に熊毛地区大会が開催される事になりました。大会には向井大輔・古元康徳の2名が出場し、成績が良ければ9月の県民体育大会に出場します。

練習日は、月曜日のテニス連盟・水曜日のジョネスクラブ・金曜日と日曜日の種子島スポーツクラブなどに参加して頑張っています。

初心者の方も経験者の方も大歓迎です。テニスを一緒に始めませんか。初心者の方は、金曜日の種子島スポーツクラブ、初心者以外の方は、月曜日・水曜日・日曜日に参加されると良いと思います。

【練習場所】
鴨女テニスコート（わかさ公園）
【時間】
月曜日・水曜日・金曜日　19：00～21：00
日曜日　14：00～17：00

テニスをされたい方は、下記の連絡先までお問合せ下さい。
【連絡先】
部長　：　古元 康徳　（田上診療所　0997-27-0325）
副部長：　向井 大輔　（わらび苑　0997-22-2600）
副部長：　田上 直生　（種子島医療センター　0997-22-0960）

「県民体育大会熊毛地区大会」庭球男子の部で優勝しました！

種子島医療センター バスケット部

副院長兼眼科部長　田上　純真

6年ほど前より当院職員有志によりバスケットサークルが結成され、現在までに少しずつメンバーを増やしながら活動を行っております。毎年開催される熊毛地区の大会にも参加し、好成績をおさめられるようにまで成長しています。

継続的な活動が認められて、このたび種子島医療センターバスケット部として再始動することになりましたことをご報告いたします。週3回の練習では中高生も多数参加して育成にも貢献できていると思います。初心者の方もいつでもバスケットが楽しめるような雰囲気で活動をおこなっておりますので、ダイエットや健康のために身体を動かしたい皆さんのご参加をお待ちしております。

種子島医療センターバスケット部

エクスプローラーズ鹿児島

副院長兼眼科部長　田上　純真

三人制プロバスケットボールのエクスプローラーズ鹿児島にて、球団代表として活動を行っております。当院にはメインスポンサーとして活動にご協力頂き、大変感謝しております。

去る5/15に鹿児島市アミュプラザ内のアミュ広場において、「3x3 west インターカンファレンスラウンド」が開催されました。京都、滋賀、広島、福岡、岡山、佐賀、愛媛と西日本各地からプロチームが参戦して試合を行い、その中、我がエクスプローラーズ鹿児島は無事優勝することができました。今シーズンもこれから日本各地を転戦し、日本一を目指してがんばって参ります。

また、種子島でバスケイベントを開催する予定もありますので、是非注目してみて下さい。

3x3 west インターカンファレンスラウンド

3人制プロバスケットボールの西日本リーグ「3x3 west」が開幕した15日、各地を巡回する試合が行われる鹿児島市のアミュ広場で、ファンを集めた、地元のエクスプローラーズ鹿児島の試合をとらえた。

アミュで開幕戦、EX鹿児島制す

南日本新聞（令和4年5月16日掲載）

成長を感じることができた１年でした

プロテニスプレーヤー（広報企画課所属）　姫野　ナル

２０２１年度は昨年に引き続きコロナ禍での活動となりました。しかしながら出場できる大会も増え、国内最高峰の全日本テニス選手権大会に最終的に出場することができました。

情勢等を考慮し国際大会への出場は断念し、国内で試合経験を重ねていくうちに成長を感じることができた１年間でもありました。

様々な制限がある中での活動で思い通りになりにくい状況でしたが、学んだことも多くありました。今まで以上に手洗いうがい、基本的な感染対策をはじめ、睡眠や食事などの生活習慣。体調を崩さずに戦い続けることができるよう、自分自身の身体と向き合う習慣ができました。きっとこれは様々な場面で役に立ってくると思います。

今の私があるのは、所属先であります種子島医療センターの皆様をはじめ、応援してくださる皆様のおかげです。本当にありがとうございます。

２０２２年度は新たに実業団などチャレンジの年になると思います。トレーニングも練習も新たな指導者の方と出会い日常がアップグレードされています。一日一日を大切にし、一歩一歩を着実に成長していけるよう前進していきます。

海外を視野に入れ世界ランキング獲得に向け精進しますので、応援宜しくお願いいたします。

緩和ケア研修会報告

看護部長室　山口　智代子

毎年、種子島医療センターでは、がんやその他の特定の疾病における診療に携わる全ての医療従事者が、「いつでも、どこでも、だれにでも」質の高い緩和ケアを適切に提供できるよう、緩和ケアについて正しく理解するとともに知識や技術を習得するための研修会を開催しています。

この緩和ケア研修会は、「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」（平成 30 年 5 月 9 日健発 0509 第 4 号厚生労働省健康局通知）に基づき、eラーニングでの事前学習と 1 日の集合研修を組み合わせて実施されています。

毎回、参加希望者の数は定員を上回り、この 3 年間で36名の医療従事者が当センターの緩和ケア研修会を修了しました。多くの医療従事者が受講する事で地域の医療機関や在宅緩和ケアの連携推進に繋がればと思います。

ロールプレイングでは、参加者がそれぞれ医者、患者、第 3 者の立場になり、悪い知らせを伝えるコミュニケーション技術を学びました。患者役になった方は、「癌」と告知されて頭が真っ白になったそうです。患者様の言葉を反復したり、沈黙したり、患者様の思いを理解するための関わりが出来ました。

またグループワークでは、事例を通して「痛み」の評価方法や薬剤の使用方法、がん患者の気持ちの辛さに対するアプローチ、患者様が希望される療養場所の準備について活発な意見交換が行われました。

研修中は「大変参考になる事が多かったので明日からでも活用したい。」、「ターミナルケアに苦手意識のある方こそ緩和ケア研修会に参加してコミュニケーション技術等を学び、患者さんとの関わりに自信を持ってほしい。」、「グループワークで意見を出し合えて充実感を得られた。」等の声が聞かれ、参加者からは次のようなコメントをいただきました。

医師

「少人数グループでの研修会だったので、受け身ではなく能動的に参加し、アウトプットとインプットを同時に出来るような有意義な学びが出来ました。ロールプレイングでは、患者さんの気持ちを少し体感でき、その他のグループワークでは、自分の職種を離れて、看護師さんなどコメディカルの方々の意見を聞いたりする機会があり勉強になりました。」

看護師

「緩和ケアに関する基本的知識についてeラーニングの振り返りをしながら確認することができました。初めて緩和ケアを学ぶ人も、全人的苦痛についての理解のきっかけになる内容を学ぶことが出来たのではないかと思います。ロールプレイングではSHAREを用いたコミュニケーションについて体験し、告知を受ける患者・告知をする医療者の心理について考えることが出来ました。臨床でも意識したコミュニケーションを磨いていきたいと思います。そして患者・医療者の両方を支えていけるようになりたいと改めて思えた研修会でした。有難うございました。」

作業療法士

「講師の先生方の、分かりやすく熱意のあるご指導やグループワークの際の優しいフォローに支えられ、多くの学びを得ながら楽しく参加させていただきました。緊張もしましたが、受講スタッフの皆様の雰囲気がとても温かく、サポートしてくださった職員の皆様のおかげでひと時の休憩で心が癒やされました。濵之上雅博先生がおっしゃっていた通り“建設的な・能動的な”講習会であったと感じます。本当に有難うございました。」

就業体験学習報告

令和3年度からは、高校生のインターンシップを再開しました。学生さんにとっても職員にとっても久しぶりのイベント再開に笑顔になれた3日間でした。

【日時】令和３年　10月20日～22日　９時～16時
【開催場所】社会医療法人義順顕彰会　種子島医療センター
【参加者】種子島高等学校　9名
【職種内訳】　看護師７名　レントゲン技師１名　作業療法士１名
【スケジュール】
8:50　体温測定、健康観察用紙の確認後事務所にて手続き後入館
9:00　オリエンテーション（初日）
　　種子島医療センター紹介（奨学金制度の紹介）
10:00　各部門にて体験学習開始（看護部はDVD研修後）
12:30　昼食（4F会議室）※当院レストランの食事を試食!!
13:30　各部署で見学体験実習
16:00　終了（最終日は意見交換会）

【看護部職業体験学習】

オリエンテーションは
全員で参加。
今日から頑張るぞ!!
(^◇^)

ユニホームに着替えて
早速体験学習開始しました!!

救急蘇生　(゜Д゜)

車椅子の介助　“(-""-)”

レストランの食事をいただきまぁ～す。☺

各病棟では、看護師に同行。
検温、記録、処置、食事介等
色々な場面を体験しました。

（業務と研修の合間をぬって親子でパチリ！！）

３日間、本当にお疲れ様でした。

高校生のみなさんのお陰で私たちも新鮮な気持ちで業務に入れた３日間でした。

将来は、ぜひ看護の道を選んで下さいね。待ってますyo!! 😊

種子島医療センター看護部一同

【診療放射線技師就業体験学習】

場所：種子島医療センター　画像診断室
期間：2021年10月20日～22日（3日間）

３D画像体験

CT装置見学

X線撮影装置体験

指導者と記念撮影

技師さんとのコミニュケーションも良好!

ふれあい看護体験報告

看護部長　戸川　英子

コロナ禍で中断していた「看護の日」制定記念事業のふれあい看護体験を再開しました。

【日時、場所】　令和３年７月24日　種子島医療センター
【スケジュール】
9:00　集合　感染対策（手指消毒、マスク装着等）、健康観察(体温測定)
9:15　オリエンテーション
当院の概要や理念について、看護職員の紹介、看護のお仕事体験紹介（DVD）
10:30　職業体験開始（途中１時間昼食休憩）
15:00　職業体験終了
15:15　意見交換会、感想文作成、看護関連の進学について
16:00　終了

【体験スタート】

白衣に着替えて気合十分!!

車いす操作は意外と難しい！

お薬は間違えないようにダブルチェック

何年生？　逆に質問されました（笑）

お昼もしっかり食べましょう！
いただきまぁす。(´ ～ `)

笑顔でコミュニケーション！

4 階病棟のみなさん、お世話になりました！　(^^♪　　また来てね（スタッフ）

【感想】

朝の集合の時は緊張しましたが、ナース服を着たことで気分があがり、緊張は少しなくなりました。検温では、患者さんが質問に一生懸命答えてくださったり、優しい言葉をかけてくださったことが嬉しかったです。

担当の看護師さんからは、患者さんと目線を合わせ、いつも明るい声で患者さんを笑顔にしていて、「忙しくないの？」と患者さんに聞かれた時に、忙しそうにしていると本当に必要な時に頼ってもらえなくなるということを教えていただきました。

コロナ禍で面会がない中でも患者さんが気持ちよく過ごせるように、気が利く頼れる看護師になりたいです。1 日たくさんのことを教えていただきありがとうございました。

＊＊

毎年行われている「看護の日」イベントを開催できましたが、今年度はコロナ禍で一人の受け入れでした。患者さんや看護職員とのふれあいを通して、看護の仕事や患者さんの置かれている現状を理解していただけたと思います。一人で不安もあったでしょうが、笑顔で 1 日を終えることができました。お疲れ様でした。

職業体験学習を終えて

職業体験学習を終えて

職業体験学習を終えて

職業体験学習を終えて

就業体験学習を終えて

事業所名：[illegible]

学校名：[illegible]　氏名：[illegible]

今回の就業体験学習は、とてもためになるいろいろなことを教えてくださいました。[illegible]医療センターは、県内唯一の三次救急体制を備えた病院で、診療科が26診療科あるということに驚きました。看護師さんは、とても丁寧に対応して、[illegible]しっかりとして、病院では手術消毒を徹底しておられ、処置の時には、素早く的確に、やさしく接しているのを見て、すごく患者さんも笑顔でいい関係だなと感じました。また、病院で使用する道具などは細かく滅菌されており、衛生を大事に扱っているんだなと感じました。看護師は、あまり休む暇もない仕事で大変だけど、笑顔で仕事をしていて、すごいと思いました。自分も看護師を目指しているので、いろいろと学ばせていただきました。将来看護学校に行って、もっと詳しく勉強したいと思いました。短い期間でしたが、本当にありがとうございました。看護師になれたら、[illegible]医療センターで働きたいです。三日間ありがとうございました。

就業体験学習を終えて

事業所名：[illegible]医療センター

学校名：[illegible]　氏名：[illegible]

今回の就業体験学習を終えて、色々と学ぶことが多かった。当日の最初にあった全般オリエンテーションでは、[illegible]医療センターはどのような施設であるのか、何を目的として来ている方がいるのかを学んだ。作業療法士（OT）と[illegible]という職業を通して、作業療法士と理学療法士の違いについても、どのような場面で活躍しているのかを深く知ることができた。[illegible]では、「できる」から「作業」日常生活できるように[illegible]をしていると説明を聞いていたが見学で[illegible]。それぞれの患者さんに合った[illegible]担当者の作業療法士の[illegible]すごさを実感した。[illegible]。この就業体験学習を[illegible]。

就業体験学習を終えて

事業所名：[illegible]

学校名：[illegible]　氏名：[illegible]

今回の就業体験学習では、診療放射線技師の仕事を体験させていただきました。[illegible]

報道・広報関係

15 くらし 2021年(令和3年)9月15日

かごしま ドクター便り

「本土並み」近づく

離島医療

51年前、郷里の種子島に帰り、小さな内科の診療所を開設しました。少しでも島の人に役立てればと思い、少し気負い立っての船出でした。いろんな疾病に当惑しながらも、産婦人科以外の診療科は、何でも手探りの状態で対応せざるを得ませんでした。

腹痛、吐血、喀血、脳卒中、骨折、切り傷、まむし咬傷など、応急手当を施し、手に負えない患者は鹿児島大学病院、市立病院など鹿児島市内の病院に送りました。

鹿児島への患者の搬送は、4時間半の救急船や30分の飛行機に依頼しました。やがてヘリコプターでの搬送が可能になり、昼間は県防災課に、夜間は鹿屋航空自衛隊にお願いしました。

診療所開設10年目の頃より医師の派遣を受けられるようになりました。それに伴い、開腹、骨折、白内障の手術などが少しずつ可能になり、入院治療ができる「2次救急」までは何とか対応できるようになりました。

この50年間の医学の進歩は目覚ましいものがあり、医療機器もどんどん改良され、今では開院当時と比較すると、目を見張るばかりです。

医学の進歩とともに交通手段も発達し、高速船やドクターヘリは離島にとって革命的なものだと言えます。

画像診断システムの普及は驚くばかりです。島で撮影されたコンピューター断層撮影(CT)、磁気共鳴画像装置(MRI)の画像は、診断名がつき、30分で確定診断ができるようになりました。人工知能(AI)の発達で、ロボットによる手術も近い将来できるような時代がすぐそこに来ています。

かくして離島の医療は本土並みの水準に近づきつつあり、医療面の格差はやがてなくなるでしょう。

(鹿児島県医師会監事、せいざん病院院長・田上容正)

◆第3水曜掲載

南日本新聞　令和3年9月15日掲載

2021年(令和3年)10月20日 水曜日 地域総合 24

みなみネット kagoshima local network

◆西之表の病院に抗菌スプレー贈る　遊技場などを経営する市丸グループ(鹿児島市)は9日、新型コロナウイルス感染予防に役立ててもらおうと、西之表市の種子島医療センターに抗菌スプレー(420ミリリットル)40本を贈った。贈呈式で、市丸貴彬営業部長=写真右=は「創業70年を迎え、ルーツがある種子島の医療に力

添えしたかった」とあいさつ。高尾尊身院長は「患者のために有効活用したい」と応えた。

南日本新聞　令和3年10月20日掲載